

清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）

≪長野県山形村≫(やまがたむら)

第 1 1 集

（長野県道 1 号線～508 号線）

NO.71 あゝ野麦峠の岐阜県道・長野県道 39 号線

（長野県道 26 号走破）（長野県道 39 号走破）

NO.72 下仁田から軽井沢（下仁田街道とプリンス通り）

（群馬県道・長野県道 43 号走破）

NO.73 旧軽井沢の繁華街を歩いて、旧碓氷峠に力餅を食べに

（長野県道 133 号走破）

NO.74 県道 37 号線（長野信濃線）を走る

（長野県道 37 号走破）

NO.75 長野バイパス（牟礼～若里）の完成は昭和 41 年 9 月

（長野県道 60 号走破）（長野県道 361 号走破）（長野県道 367 号走破）（長野県道 399 号走破）

NO.76 井戸尻遺跡（富士見町）と古代はす

（長野県道 195 号走破）（長野県道 485 号走破）

NO.77 松本城（深志城）以前の井川城

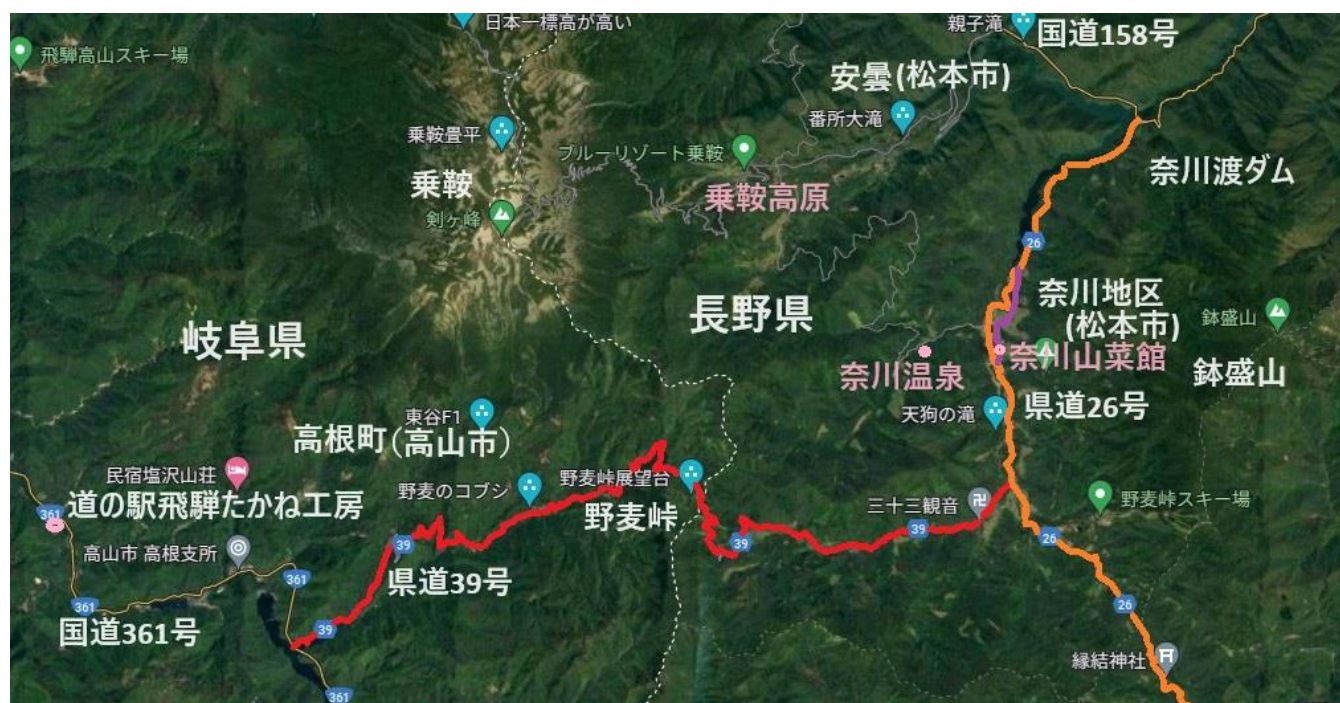
（長野県道 297 号走破）

あゝ野麦峠の岐阜県道・長野県道 39 号線

澤田 繁 著

(長野県道 26 号走破)(長野県道 39 号走破)

2020.11.3 自宅から洗馬で国道 19 号線を南下し、木曽福島を過ぎ元橋交差点から県道 20 号を使い開田高原に行き、そこから国道 361 号線を高山方面に進んだ。県境から岐阜県高山市高根町にはいり、ダム湖である高根乗鞍湖にある近城トンネルを抜けると橋があり、橋を渡ってすぐ岐阜県道・長野県道 39 号線(奈川野麦高根線)の起点の三差路があった。休憩のため 10km 離れた「道の駅飛騨たかね工房」に行き休憩。再び 39 号線起点の三差路に戻り、ダム湖の横を野麦峠に向かって走りました。高根町阿多野郷地区を通り、高根町



野麦に入り、野麦峠・標高 1672m に到達した。起点の三差路では標高 1100m でしたので約 570m 登ったことになる。峠近くでは、乗鞍岳がきれいに見えた。

野麦峠が平成大合併(2005 年)によって、岐阜県高山市と長野県松本市の境になってしまいました。旧高根町(岐阜県)から旧奈川村(長野県)の境であったものだが!。野麦峠からは下りになり、数 km 程行くと奈川の沢に出て、それから終点まで川沿いの道となった。終点 5km 手前頃から人家が現れ、集落がある県道 26 号線との交点に到達した、終点の標高は 1120m 程でここから野麦街道は松本(標高 600m)まで続いているが、まだまだ松本平に出るまでは難所があった。(県道 39 号線走破)

野麦街道は、奈良時代に信濃国と飛騨国を結ぶ官道として開かれたといわれている。江戸時代に高山が天領となつてからは代官が往来に利用したほか、越中富山の薬売りが各地に出向く際にも利用された。しかし、峠道は厳しく、幕府は願い出を受けて天保の頃に頂上に「お助け小屋」を設置した。明治の初めから大正にかけては、当時の主力輸出産業であった生糸工業で発展していた諏訪地方の岡谷へ、現金収入の乏しい飛騨の村々の女性(多くは 10 代の少女)が女工として出稼ぎのためにこの峠を越えた。この史実は、1968 年に発表された山本茂美(やまもと・しげみ)(1917 年松本村生まれ)のノンフィクション『あゝ野麦峠』で全国

的に有名になった。1911 年（明治 44 年）の中央線開通で歩いて峠越えをする人は少なくなり、1934 年（昭和 9 年）の高山線全通で主に地元住民が利用するだけになった。一方で 1968 年に山本茂美の『あゝ野麦峠』がベストセラーとなってからは全国から観光客が訪れるようになった。

この県道、若い時に来たことがあった。その時は、長野県側が今より狭く、岐阜県がりっぱな道でこうも違うかと驚いた記憶がある。調べると、自動車の通れる道路は 1970 年代半ばに完成したようで、「お助け小屋」も積雪で倒壊したのを 1970 年復活させ、現在のものは 1978 年に建てられたもののようだ。又資料館「野麦峠の館」は、1991 年にオープンしたが、2022 年に閉館になった。

2020.6.16 自宅を出て、波田小学
校前信号で国道 158 号線に出た。

えんどう
瀬東駅近くに、「仁王様の股くぐり」で有名な田村堂がある。そこには旧野麦街道が通っており、東側の道は石畳に改良された。田村堂の山門からは参道があり、信濃日光と呼ばれる「若澤寺」があり前に車で



行った、そこに寺の見取り図があり、かなり大きなお寺だったようだ。野麦街道は狭い谷が多く、「新淵橋」「雑炊橋」などが重要な役割を担っていた。稲核ダム・水殿ダムを過ぎ、奈川渡ダム手前のトンネルに入り、トンネル内で分岐している左側（一方通行）に入りました（県道 26 号線の起点）。トンネルを右側に行きダム前を左折してダム湖横を走っても県道 26 号線のように。トンネルを抜けダム湖の横に出た。ダム湖横のトンネルを何か所か通り、奈川温泉に行く道の三差路に到達した。奈川温泉の先は、上高地乗鞍スーパー林道として乗鞍経由で白骨温泉まで通っている（2008 年に無料化した）、2 度くらい通行した。ここが奈川地区の中心と思っていたが、丘を通る道が出来、上にも集落があることが分かりました。そこに農産物など売場所「ながわ山菜館」が設けられ何度か寄った。奈川はなんといっても地粉を使用して打つ「とうじそば」と思って、探して寄って食べたところが、県道 39 号線との交点よりまだ藪原方面に進んだところの「旅館・御食事処・仙洛」でした。県道沿いにある「そばの里奈川」の横の道（行った事がある野麦スキー場にも行ける道路）を少し入った所にありました。

奈川と木祖村国の境には境峠があり、そこを越えると木祖村小木曽地区に入る。県道は沢沿いを下っていく感じで緩やかに続いている。いくつかの沢が木曽川の源流ということで「はるか源流の里」と銘打っている。鉢盛山から発しているのが本流となっている。

小木曽地区から藪原地区に入り、県道 26 号線は旧中山道にある藪原宿内を避けて川沿いを進み国道 19 号線の藪原交差点で終点となった（県道 26 号線走破）。藪原は「お六櫛」もあるが、北原製菓店（菓子種類がなんでもある感じ）でよく買い物をする。



歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvn.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.5.11

下仁田から軽井沢(下仁田街道とプリンス通り)

澤田 繁 著

(群馬県道・長野県道 43 号走破)

2020.12.1 中央道長坂 IC で降り野辺山駅に向かう。野辺山から小海までは国道 141 号線で、小海から中込までは主に県道 2 号線を使い、国道 254 号線に出ました。国道 254 号線を群馬県方面に、県境を越え、カーブの多い箇所を抜け、「薫コンニャク屋」で休憩を兼ねて駐車し、下仁田ネギとコンニャクを買いました。

ここから 5km 程下った信号の無い三差路が群馬県道・長野県道 43 号線(下仁田軽井沢線)の起点となる。三差路を左折して 1.5km 程行くと下仁田街道と交わる。下仁田街道の 1.2km 手前には本宿宿がある。この街道は「姫街道」とも呼ばれ、中山道の別街道として利用された。中山道とは、埼玉県本庄市の本庄宿から分岐し藤岡宿から国道 254 号線に沿って下仁田宿そして本宿宿、本宿宿の先で県道 43 号線と合流し和美峠(鰐坂峠)を越えて少し行った所で県道 43 号線と分岐し信濃追分の手前の借宿で中山道と一緒に。「姫街道」以前どこかで走った記憶があり調べると、



いくつも有り、そのうちの東海道の姫街道として、磐田市見附宿から豊川市御油宿までの「本城越・本坂道(姫街道)」の途中を走った。国道 152 号線で浜松市天竜区に行き、国道 362 号に乗り換え、磐田から来る静岡県県道 261 号(姫街道)と気賀宿のある気賀四ツ角交差点で姫街道に入り、三ヶ日まで国道 362 号(姫街道)を走った。この時、後は浜名湖の方に南下し行っただけで、姫街道の難所「本坂峠」には行っていない。

本宿宿付近の標高は 360m、そこからは川に沿っての道となり、登って行くと、上信越が見えて来て、その上越道の橋脚の下を通り、さらに曲がりが多い登りを越えると、南軽井沢のリゾートの一つに到達した、貸別荘やキャンプ等が出来るエリアのようだ、その周辺を回り和美峠(標高 984m)を越えた。峠を越えると、碓氷軽井沢 IC から来る県道 92 号線と交わり、緩やかに下って行くと両側にゴルフ場が目立つ、国道 18 号線バイパスを横断していくと、店屋やホテルが多い通り(プリンス通り)を通り、新幹線と信濃鉄道のガード下を通り、国道 18 号線と新軽井沢交差点で交わり、県道 43 号の終点(県道 43 号線走破)となる。

プリンス通り横(軽井沢駅南下)には「軽井沢プリンスホテル」の広大な敷地があり、近年は、駅南に出来増設を繰り返した「軽井沢ショッピングプラザ」が人気を高めている。軽井沢にはテニスブームの時多くのコート・宿泊施設が出来た。実業団テニス全国大会も規模を大きくし(160 人⇒500 名)発展すべく、その規模の初回大会(第 36 回・平成 9 年)の運営を任せられたのが軽井沢プリンスホテル会場であった。試合の消化と 500 人規模の夕食会を行うため、かなりの準備期間を要したがスタッフの賢い働きで無事終了した。

2020.12.1 県道 43 号線を走り、国道 18 号線との交点新軽井沢交差点を右折して、軽井沢駅入口交差点を軽井沢駅(県道 133 号線起点)に行き戻ってきました。県道 133 号線(旧軽井沢軽井沢停車場線)を北上し旧軽井沢の繁華街を避けて。三笠通りを 200m 程行くと、「水車の道」があり、そこを走った後、元に戻るようして碓氷軽井沢 IC より帰宅した。



2021.10.19 小諸 IC より浅間サンラインを通り国道 18 号線に出ました。国道 18 号を東に進み、軽井沢バイパスには行かずに信濃鉄道沿いの国道 18 号線を^{はなれやま}離山交差点まで行き、ここから旧中山道に入りました。この旧中山道(離山通り)は、高い木の多いエリヤで、古い別荘も多い通りになっている。しばらく走ると家も多くなってきて、県道 133 号に出た。県道 133 号線と旧中山道は、そのまま旧軽井沢の繁華街の通りにもなっているので、仕方なく今まで一度も走った事がない繁華街を走り抜けました。二手橋(標高 990m)

を渡ると登りになる。比較的カーブが少ない緩やかな登りの道であった。長野県から群馬県に少し入った所に神社の駐車場(標高 1200m)があったのでそこに駐車して、早速神社に向かった(県道 133 号走破)。神社は、長野県と群馬県の県境に建てられおり、最初階段と鳥居も真中に県境、門から社殿までも真中に県境、社殿には群馬県と長野県双方に賽銭箱があった。詳しくは知らないが、神社がそれぞれ違うようだ。双方に賽銭をあげて、お参りました。又、長野県側にある「シナノキ」は、樹齢 850 年余と伝えられる巨木で、幹の割れ目に鏡を植えた神木になっている。お参りの後、横

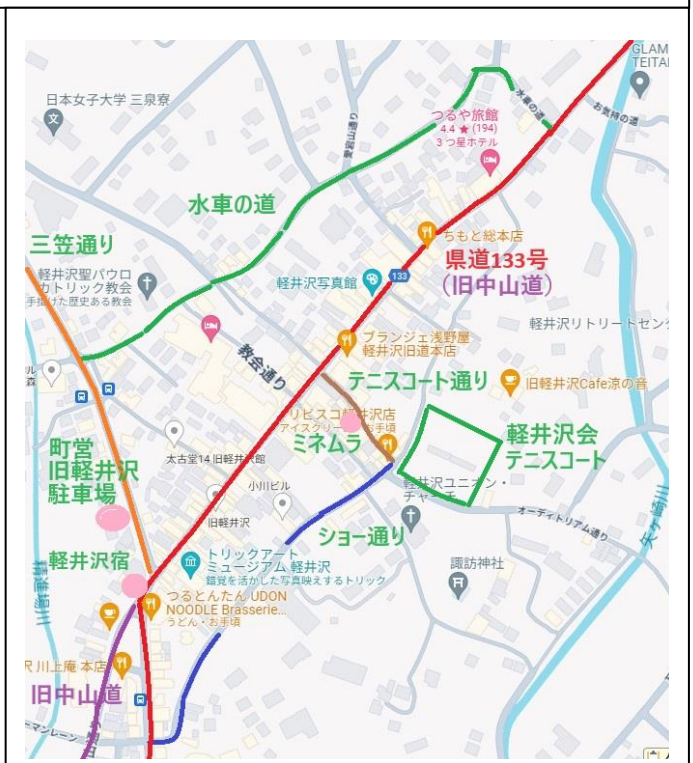


に回ってみてきました。



名物の「力餅」を食べる事にしました。神社の前に「元祖力餅・しげの屋」に入りました。旧碓氷峠にある、この店も両県にまたがって建てられており、入ると群馬県側が見渡せるテラス席がある。寒かったので内で力餅をいただきました。碓氷峠は現在 3km 南の国道 18 号（1882 年開通時に）側に移動した。

県道 133 号線に戻り、帰路に着きました。又軽井沢の繁華街に入って来ました。結構軽井沢は訪れている、旧軽井沢でのバーゲンセール（昔は夏のみに店を開いて、店じまいのセール）だけに何回か買い物に来た。国道 18 号線のバイパスより南でのテニス合宿の時に、旧軽まで足を延ばした時は、「テニスウェアのミネムラ」によって、文字等をウェアに圧着した記憶がある。その後、実業団の大会にもミネムラさんが関わってくれて、社長とも懇意になりました。繁華街の途中からテニスコート通りに左折した、「ミネムラ」はあったが当時の位置とは違った位置だ。通りの先が有名な「軽井沢会のテニスコート」で、一回だけ、テニス大会に参加して入ったことがあるクラブコートである。ショー通りを南下し県道 133 号に戻り、軽井沢駅まで行った（県道 133 号走破）、この日は、18 号線を追分まで戻り、御代田・小諸・丸子を通り帰宅した。



《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.5.12

県道 37 号線（長野信濃線）を走る

澤田 繁 著

(長野県道 37 号走破)

2021.8.10 中野インターから県道 399 号（豊野）を走り善光寺に、ここから信濃町に行きました。県道 37 号（長野信濃線）の起点は、信大教育学部の近くの国道 406 号線にある若松交差点となります。400m 程北上すると、横沢交差点があり、右折して善光寺の西に向かう。直進すると「戸隠道」があり、戸隠道に沿って長野西高がある。この戸隠道は道幅が狭い。現在、せまい戸隠道を回り込むように道がある（横沢交差点を左折）。この道は、バードラインが 1985 年（昭和 60 年）のく地附山の地すべり災害＞で通行不能となったため、代替え道路として改良された。結構急で、途中「七曲がり」などカーブも多い。学生の時（1970 年前後）よく飯綱スキー場（2020 年閉場）にバードラインを通って行った。学生の頃、この周辺賑わっていました。地附山ロープウェイ（19961 年～1974 年）もありました。

善光寺の西から北を回り、城山公園西交差点を左折し上松交差点に、城山公園には、野球場・テニスコート・動物園があり、それぞれ利用した事がある。最近は県立美術館に 3 年に 1 回は行っている。

浅川東条交差点からも、飯綱に行く県道 506 号線がありループ橋が特徴の路線である。ここの交差点から 1km 程行くと県道 37 号線は山道に入る。長野市と飯綱町の境の坂中峠は、以前に走った時は、結構の難所であった。2001 年（平成 13 年）11 月、坂中トンネルを含む「坂中バイパス」が出来たことで、スピードUPになった。善光寺付近が標高 400m で、坂中トンネル入口が 680m・出口 740m で、旧道の坂中峠は、標高 807m とかつての「坂中街道」（北国街道の脇道）の難所であったようだ。

飯綱町地蔵久保地区・川上地区・柳里地区・古町地区で信濃町大井地区・穂波地区・平岡地区・柏原地区と軽いアップダウンのある道を通り、県道 36 号線との交点仁之倉交差点（標高 670m）に到達した（県道 37 号走破）。

北国街道の柏原宿（標高 680m）から牟礼宿（標高 500m）までは、現国道 18 号線と沿っているが、国道と鉄道は、川沿いの谷を通っているが、北国街道は小山を越えて行くルートになっている。・・・・・・・・・・・・・・・・

<http://www.go.tvn.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>



《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.5.12

長野バイパス(牟礼～若里)の完成は昭和41年9月

澤田 繁 著

(長野県道60号走破)(長野県道361号走破)(長野県道367号走破)(長野県道399号走破)

国道18号線の**長野バイパス(牟礼～若里)**の完成が1966年(昭和41年)9月であった。当時の国道18号長野バイパスは、若里の工学部前を通っており、若里にある工学部は2年生(昭和44年・1969年)からのキャンパスであった、国道周囲は深夜でも交通量があり、トラック運転手等のドライブインが国道沿いにあった。長野バイパスは、牟礼から豊野町浅野交差点、そこから「リンゴ畑」を直線的な路線が長い「アップルライン」として、柳原北交差点まで伸び、そこから国道406号線と重複区間が、東和田交差点まで、上千田交差点を経て若里荒木交差点で、既存の18号線と一緒にになった。

国道18号線は、長野バイパスが出来るまでは、牟礼から現在の**県道60号線**?(北国街道を多分南下した)となる前の道路と、長野市徳間からは現在の**県道399号線**が、北国街道を引き継ぎ(旧18号線)、善光寺宿まで走っていた。善光寺宿からは、中央通りを駅近くの末広町交差点を通り、荒木交差点付近までの路線であった(ちょっと路線には、自信ない)。

大学2・3年と、荒木交差点の南にある丹波島橋を通して学校に行っていたが、交通量が多くネックになっていた。大学2年(1969年)の11月に「長野大橋」が完成し、上千田交差点と結んだ路線が

出来て、交通量が緩和された。「長野大橋」完成直後にバイクで走った記憶がある。その後、篠ノ井バイパス(青木島大塚交差点～篠ノ井橋北交差点)が2車線完成(1982年)・4車線完成(1987年)するまで17年かかった。現在上千田から荒木までが、国道18号線から県道372号線に変わった。



2021.4.27 中野インターから北信五岳道路を行ったり来たりして、^{ふるま}古間駅に到達しました。古間駅から南に細い道を行くと、「旧戸草トンネル」があり、見学に車でいった。旧戸草トンネルは明治時代の鉄道遺産で現在のサイズより小さく、戦後新たなトンネルに移設された。トンネルを通り、又戻って古間駅に着いた。

駅から、700m北に県道360号を走ると三差路があり、そこが県道361号線の起点である。県道361号(水穴古間停車場線)を走り、県道96号線との交点(信濃町富濃小字水穴)まで走るとそこが終点の約1.5kmの路線で、途中上信越

道の下をくぐった（県道 361 号走破）。

県道 96 号線（長野県道・新潟県道/飯山妙高高原線）を東（飯山市方面）に向かう、荒瀬原地区の中心地の交差点に県道 60 号の起点がある。

県道 60 号線（長野荒瀬原線）の起点は標高 700m で途中の牟礼駅付近が 500m でこの間（荒瀬原から牟礼駅付近）登りはわずかで、ほとんどが緩やかな下りであった。又起点から 300m 行くと、山間地に入り、3km 程行くと、その後は、人家のある耕作地が牟礼まで続いた。



国道 18 号線との交点の牟礼駅入口交差点を突っ切り、100m 先の踏切を渡った。左折して、牟礼駅（標高 500m）まで行き、戻ってきて、60 号線を進むと、北国街道と交わりともに南下した。ここから登りの道になり、平出地区で標高 600m を少し超える程度がピークの登り道で、後は緩やかに下って行った。北国街道は、県道 60 号に沿って徳間道標まで進む、その前に平出追分道標の位置で、松代街道と分岐するところがあり、徳間道標では、飯山街道（県道 399 号）と一緒に場所である。徳間道標より先に進むと、^{あらまち}新町宿跡があるが、街道筋の雰囲気は少し感じる程度であった。新町宿は、江戸時代には、稲積村（稲田）・徳間村・東条村の三村で受け持っていたようだ。吉田に入り、しばらく行くと北国街道は西の善光寺方面に向かう。県道 60 号線はそのまま南下し、中越地区まで行く。新道の 60 号線が出来る（2021 年開通）までは、さらに東和田まで伸びて国道 18 号線と交わる路線だった。

新道の 60 号線は、長野市田中（西条⇒吉⇒田子⇒田中）の交差点から、若槻大通りの商店街を通り、長野電鉄線の下をくぐり、上越新幹線と在来線の上を通り、国道 403 号線と県道 60 号終点の平林交差点と交わる（県道 60 号走破）。この新線は、さらに南下し国道 18 号と交わる道路として計画されており、2008 年には、平林交差点から国道 19 号線交点の 671m が開通しており、18 号線までの約 500m が未開通となっている（多分完成時には県道 60 号が順延される）。この日は長野市内を散策し帰宅した。



2021. 8. 10 中野インターから県道 29 号線を西に、立ヶ原交差点で国道 117 号線に入り長野方面にいく、国道 18 号線との交点でもある浅野交差点（**県道 399 号線の起点**）を直進した。浅野郵便局前を通り、豊野駅付近の松代街道までは、街道だった気配のない、住宅街あり耕作地ありの、センターラインのない道でした。飯山街道沿いのはずなので、少し調べて見ました。飯山街道は。浅野駅周辺でわかる所で右図、浅野宿の場所は不明でした。飯山街道は浅野郵便局付近が県道 399 号線（長野豊野線）とわずかに重複していそうだが確信はない。浅野郵便局前の三差路を浅野駅まで、後日（2022. 11. 19）行ってみましたが、街道筋ではなさそうでした（県道 367 号＝信濃浅野停車場線走破）。浅野宿から豊野駅北にある神代宿までは、^{かじろ}県道 399 号線の線路を挟んで北側を街道が通っていた。



県道 399 号線と松代街道の交点から神代宿跡に行くには、線路によって街道は分断されているため、少し迂回して高架になった線路を渡る。最初の信号を左折して県道 399 号線を続けて走りました。神代宿には信号を右折して、松代街道に戻り、左折して牟礼方面に向かい、300m 程行くと飯山街道との交点に到達し、右折して 60m 行った所が神代宿跡のようだ（宿場跡までは足を延ばしていません）。

豊野（神代宿）から徳間道標までの飯山街道は、ほぼ県道 399 号と一致しており、この間走ると、街道筋の趣は十分感じられた。途中^{さんさい}三才駅があり、三歳を迎えた子供を連れて来る観光客が多い。また 1954 年までは、^{ふるさと}古里村が存在しており、今でも構成地区の地名として、富竹・金箱・上駒沢・下駒沢・三才が残っている。



県道 399 号線は徳間道標で県道 60 号と重複して、吉田の分岐点まで走り、ここからは北国街道として善光寺仁王門まで走った。北国街道は、長野駅に向かう中央通りを通り、末広交差点を直進（左折すると長野駅）し、線路を通り丹波島に向かう。

仁王門から県道 399 号を走り、南に一通りずれた所にある「西之門よしのや」に休憩を兼ねて立寄りました。観光地化した酒屋さんで酒等を購入しました。399 号線に戻り、娘が大学時代・部屋を借りていた吉井屋呉服店の横を通り、桜枝町交差点を左折し、国道 403 号線との交点の若松町交差点に到達。この日は、県道 37 号線を走り信濃町インターから帰宅した。

残りの 399 号線はよく利用する道で、若松町交差点から国道 403 号線と重複し、信大教育学部前の信号を左折し、長野県庁横を通り、県庁前交差点で国道 19 号と交わる。399 号線終点の中御所交差点まで国道 19 号線との重複道路となる（県道 399 号走破）。

<http://www.go.tvn.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm> 歳時記ホームはこちら

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.5.13

井戸尻遺跡(富士見町)と古代はす

澤田 繁 著

(長野県道 195 号走破)(長野県道 485 号走破)

2022. 1. 11 大回りして、「井戸尻遺跡」に行く事にした。長坂インターで降りて、八ヶ岳山麓を登って、北杜市長坂町小荒間(甲斐小泉駅近く)にある「三分一湧水公園」に寄り、さらに山麓を登り県道 11 号線に出た。11 号線を走り、大平交差点を右折し、県道 11 号の支線を長野県境に向かう、県境を過ぎたところから、長野県道 484 号線になり、50m 行った所に県道 485 号線との交点があり、左折して県道 485 号(富士見高原線)に入った。

県道 485 号線は、八ヶ岳山麓を下る路線になり、県境の甲六川に沿って谷の上を通った。道幅は、狭い所でも路肩を利用するのすれ



違いが出来る道であったのが、高速道路が近づくと道は広くなった。高速道をくぐり、県道 17 号を越え、線路の上を通過した。線路を越えて、国道に出て、諏訪方面に行って、上鷲木交差点から県道 195 号(信濃停車場線)に入り、信濃境駅を目指した。境駅までは標高差 180m の登りの道であった。途中(境駅手前 600m)右折して、「井戸尻遺跡」に向かったが、井戸尻考古館は休みだったので、井戸尻遺跡公園まで足を延ばしてから、県道 195 号に戻り、信濃境駅に到達した(県道 195 号走破)。信濃境駅から町道を通り、国道 20 号線の机交差点に出て、国道 20 号を通り諏訪インターから帰宅した。



2022. 7. 19 井戸尻遺跡のそばに「古代はす」の花が見頃のニュースを聞いて、小淵沢インターで降り、県道 11 号を下り、県境(甲六川)を越えて 200m 程行った所を右折し、町道(青色)を登っていく、県道 485 号線と交わり、さらに町道を登って行くと、右側に駐車スペースがある所に着いた。ここから車を止めて、田んぼ道を少し歩くと「古代はす(大賀はす)の花」に出会えた。はすは結構広いエリアにあり、園内(井戸尻遺跡公園内の植物園)を歩いて見て回りました。

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.5.13

松本城（深志城）以前の井川城

澤田 繁 著

(長野県道 297 号走破)

平成 25～28 年にかけての発掘調査により、井川城・林大城・林小城などの史跡が、明らかになった。井川城は、室町時代（14 世紀～16 世紀）に信濃守護小笠原氏が井川城（井川館）を構え、本拠地としていたところです。小笠原貞宗は、建武の新政の際足利尊氏にしたがって活躍し、その功績として信濃守護に任じられました。建武 2 年（1335 年）には安曇郡住吉荘を与えられるなど、次第に筑摩・安曇に足がかりを築き、国府に対抗して守護の基盤を固めるため、それまで本拠のあった松尾（飯田）から府中（松本）に進出して井川城を築いたと考えられます。発掘調査により、頭無川やその流路跡を利用し堀を周囲に巡らせた南北 100 メートル、幅 70 メートルにおよぶ



長方形の巨大な盛り土による造成区画が見つかり、内部からは多数の建物の礎石や柱穴とともに、青磁や白磁、青花などの高級な中国産の陶磁器や茶道具が見つかり、守護クラスにふさわしい構えの居館跡が地中に眠っていることが明らかになりました。さらに、館跡の周辺には「古城」「中小屋」のように館に関係する地名や、「下ノ丁」「中ノ丁」のように役所の存在をうかがわせる地名もあります。またこれらのほかに「中道」の地名もあり、広い範囲に家臣屋敷や城下の町割、寺社などが広がる壮大な守護の本拠の姿が想像されます。この「井川城」の築城は、恐らく1340年前後と推定されます。戦国時代の動乱が深まる中、15世紀末までに井川から林へと小笠原氏の本拠が移転したものと推定されます。



県道 297 号線は、よく利用する部分が多い路線で、井川城から林城への本拠が移転した道のりとほぼ同じに見える。国道 19 号線の鎌田交差点から、4 車線化が、県道 295 号線（旧国道 19 号線）交点まで進んだ。交点からは庄内町交差点までは、県道 297 号線は県道 295 号線と重複しており、ほとんどが一方通行路線である。鎌田から林方面に行くには、295 号線との交点を右折し、薄川の手前を左折し、信号を右折して薄川を

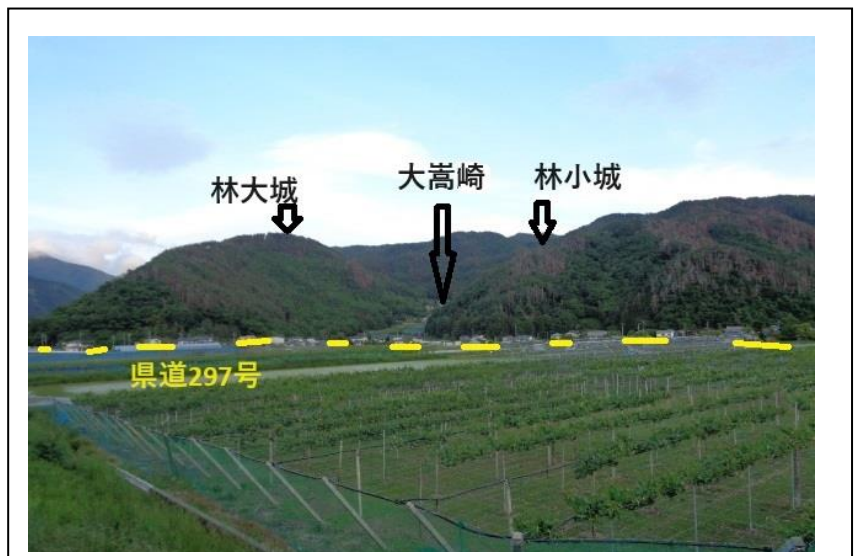
渡る市道を通る。297 号線に出るには、庄内町交差点で合流し左折し進み、県道 63 号との交点である筑摩^{つかま}交差点を左折し 300m 程 63 号線と重複し、右折して林方面に向かう。筑摩 4 丁目の信号を過ぎると、道は少し狭くなりすれ違いに注意を要する。林城周辺の集落を過ぎて金華橋を渡る頃には道は 2 車線になり、そのまま兎川寺交差点まで行き終点となった（県道 297 号線走破）。

実家は、源池小学校の近くにあり、川向こうの地として、いろいろ思い出のある地域である。川向こうは筑摩地区で県道 63 号近辺から東は、学区が源池小学校のため、何人か同級生がいた。中学は「生妻池」の西の丘に開成中学校が新たに出来たので、筑摩は開成中学に行く事になった。私の通った、清水中学校から出来立ての開成中学にバレーボールの遠征試合に行った事があり、丘（山）の頂上を切り開いた学校で、木もまだ低くボールも下まで転がって行ってしまう感じがした事を思い出す。小学校時代に親と一緒に「焚き付け用松葉」を取りにリヤカーを引いて「千鹿頭」の松林まで取りにいった。最近リヤカー道をたどって見ましたが、昔通りのリヤカー道は健在でそのまま舗装され、道脇は畑から住宅に変わっていました。この道は、「千鹿頭池」への道で、池の周りの桜の花見や、なんと冬のスケート（私は下駄スケート）として、源池小学校から授業時間として、竿（池の氷の薄い所等に置く）を持って、何度か行った道でもある。又、小学校時代の山として、千鹿頭の山は、遊びやすく、遠出の遊びとして結構行った。神社までは小山登りで、神社から上が、子供心で「冒険」の気がしていた。「生妻の池」に降りる道で、止め山が多く、きれいな山にしてあった事や、1 回だけだが、林大城（東城山）から上に登って、千鹿頭神社に降りた「大冒険」がなつかしい。「生妻の池」も小山を越えて何度か行った。釣りとか沢蟹捕りとか遊びとしての遠征でした。

源池小学校で行われた長距離走は、薄川の土手を小松橋まで行き、橋を渡り、対岸の土手を走り筑摩橋を渡り校内グラウンドまでの約 2km の周回コースでした。そのため何回か練習として実家から走った記憶がある。今は信じられないが、当時結構上位に入っていた。中学時代から長距離は駄目になり、高校の 1500m 計測では、最下位に落ちてしまった。

東城山（林大城跡）には、わらびを取りに季節には、親とともにいった。最初の山は、結構登りがきつく、わらびもなかった。その山を越すと城跡まではなだらかな尾根になる、そこがわらび取り場所だった。遊びでは余り利用しなかった？かもしれない。今回、歴史を調べて驚いたのが、林城が先に作られ、後にその支城として深志城（松本城）が作られた事でした。小さい時から今日（76 歳）まで、松本城の山城として、松本城北の城山と東の東城山（林城跡）があると、思っていました。

林城は、1459 年に小笠原氏によって築城（小笠原長時城主）された。要塞として築城された林城は、大城と小城からなり、尾根づたいに多数の平場や堀切り、堅堀が設けられた強固の守りの城であった。林大城（金華山城）と林小城（福山城）との間のふもとにある大嵩崎^{おおつき}集落に館町を形成し、さらに金華橋から広沢寺（廣澤寺）までにも城町を形成したようだ。最近大嵩崎集落を走ったが、石垣が古そうな家が多かった。岩波酒造の周辺にも大きな構



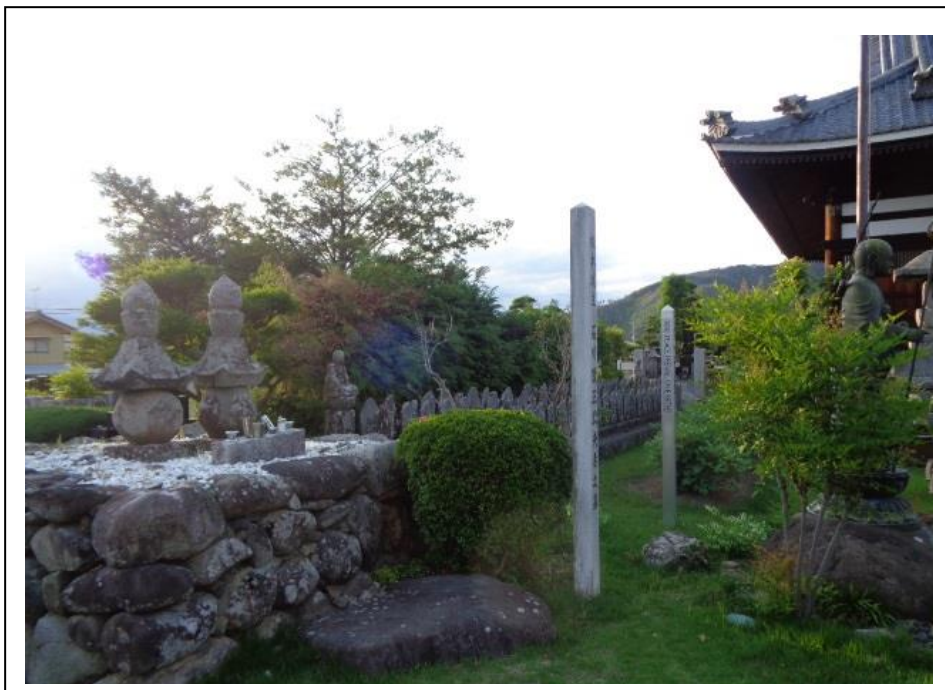
えの住宅が目立っていた。戦国時代の永正年間（1504 年～1520 年）に小笠原氏によって、林城の支城の一つとして深志城（松本城）を築城した。

1550 年武田信玄によって、林城は一夜で落とされてしまいました。又深志城も落城した。武田氏は、林城を破却して深志城代として馬場信春を配置し、松本盆地を支配した。1582 年武田氏滅亡により、織田信長の

支配下、その後、徳川家康の麾下（じきじきの家来）となった小笠原貞慶（1546 年林城で生まれる）が旧領を回復し、松本城と名付けた。1590 年の豊臣秀吉による小田原征伐の結果、徳川家の関東移封が行われ、当時の領主小笠原秀政（貞慶の子）も下総国古河へと移った。代わりに、大河ドラマ「どうする家康」で名前が知れた「石川数正」が入場し、石川数正とその子康長が、天守を始め、城郭・城下町の整備を行った。

県道 197 号線は、兎川寺鎌田線と呼ばれ、路線名称の兎川寺が気になっていた。最近初めて訪れて見ました。現在のお寺は明治の廃仏毀釈によって廃寺になったのを復興したお寺のようでしたが、「石川数正夫婦の供養塔」がありました。

兎川寺は、寺伝によれば今から 1300 年前の飛鳥時代、聖徳太子によって創建されたと伝わる。中世には天台宗・真言宗合わせて 24 坊からなる大伽藍があり隆盛を誇った。1332 年の北条氏の反逆に対し、天台宗僧徒が比叡山に集まったため、天台宗の 12 坊は廃墟となり、真言宗の 12 坊のみとなった。武田信玄が林城を落とすとともに、小笠原氏の祈願寺となっていた当時は、暴徒により仏像や多くの寺宝が持ち去られた。小笠原



氏の庇護がなくなり、一時衰退した。その後、松本城主となった石川数正が庇護した事で、再び境内が整備され周辺住民からも広く信仰されるようになった。

【付録】

伽藍・僧侶が集まって修行する清らかで静かな場所を指す言葉。転じて「大きな寺」や「寺院の建物」という意味ももつようになりました。伽藍は主に、山門・仏塔・講堂・庫裏・食堂・鐘楼・東司などの建物から構成されています。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/aijiki/saijikihome.htm>